

第129回 令和7年11月21日（金）

「クマの被害をどうしたらよいのか。」

連日クマによる被害が報道されています。昨年に比べて明らかに件数が増えています。クマの頭数が増えているのではなく、クマが人間から食料を奪ったり、人間を食料にしたりすることを覚えてしまったことが原因だと思います。そうすると今後増加の一途をたどることも考えられます。

長いこと人間の生存を脅かすような天敵は同じ人間とウィルスくらいしかいませんでした。自分のテリトリーに侵入してきたら襲い掛かるワニやサメやライオンなどはいましたが、天敵と呼べるような存在ではありませんでした。これからはクマが天敵になるのかもしれません。

東北の学校では爆竹をしかけたり、鈴を鳴らしたりしています。でもクマにとって人間の存在が餌と認識されてしまったら、このような行為はかえって人間の位置を知らせるだけになってしまうかもしれません。

昔から言われている「死んだふり」などはまったく意味がないようです。クマに顔面をたたかれると鼻とか飛んでしまうと言われていますから、よっぽどの子熊でない限り戦うのは難しいでしょう。

私は神奈川県立津久井高校にも2年ほど勤めていました。毎日きれいな山々を眺めて仕事ができる環境でしたが、最近新聞で「クマ出没」のニュースが出ていました。気をつけてほしいです。

お年寄りが襲われるケースが大半です。畑に出ているときや、キノコ狩りをしているところを狙われています。エサとして認識されているのかもしれません。日本の農家にとっても影響が大きいと思います。

クマにとっても山にエサがなく生きるのに必死なわけですから、止めさせようとしても難しいでしょう。これからはクマの被害が交通事故並みになってしまうかもしれません。

ちょっと前に「進撃の巨人」と言う漫画が流行しました。地方では今後あの漫画のように人間が柵の中で暮らさなければいけないのかもしれない。

解決策は山の植生を元に戻すことなのかもしれません。何十年もかかることになるのですが、自然破壊が人間に被害をもたらしてしまっているわけですから、すぐにでも取り掛かるべきなのでしょう。もう一度昔のように人間とクマが共存できる環境をつくるしかないのかなと思っています。